

琉球大学

留学生センター・ニュース

2002年3月 創刊特別号

センター・ニュース発行の挨拶

留学生センター長 川平 博一

センター・ニュースの発行を喜び、謹んでご挨拶申し上げます。

本学に留学生センターが設立されて、早や4年の年月が過ぎようとしています。センターの教官、事務官の日頃の働きを目の当たりにしていると、この時の経過を“遅きに失した”とは、到底思えず、むしろ“満を持して”と思いたい気持ちになります。

振り返って見るに、国際化の進展に伴い、琉球大学の留学生教育は、敏感に時代の趨勢を反映して、推移して来たと言えます。時代を先取りしたとさえ言えないでもない事柄もいくつかあります。日本語・日本事情の授業科目が早くから共通教育のカリキュラムの中に位置付けられたこと、センター設置に当たって、センター長が部局長会の構成員になるという、そう例のない体制が取られたことなどが、そうです。このことは、琉球大学が研究・教育の国際性をよく認識し、国際交流を重視していることの何よりの証左と言えます。また、琉球大学の理念の一つである“地域・国際社会への貢献”の具現化のための営為でもありました。

センターは、平成10年に教養部、後に同部廃止に伴い法文学部の日本語・日本事情担当の教官2名と新たに定員化された3名の新任教官で以って発足しました。爾来、従前の日本語・日本事情の授業科目に加え、新たな教育プログラムとして日本語研修コースを立ち上げて、予備教育を実施して来ています。センター設置により、生活指導部門に専任の教官が配置され、増大する留学生を対象に、ようやく修学上、生活上、更には学生の文化活動一般に係る学外との渉外に充分に対応できる体制が取られました。短期留学生特別プログラムの実施については、1年の試行期間を経て、平成13年度には、概算要求が認められ教官定員2名がつき、専任の教官を迎えて実施体制が整いました。英語による授業科目から成るこのプログラムは、既存の理工系大学院の特別コースと共に、“日英二言語併用の教育研究環境を創造する”という琉球大学の中期計画の中の基本方針の先駆けとしても、全力投入して成功に導かなければならない重要なプログラムです。

これより、当センター・ニュースを通して、センターのいちいちの教育・研究活動を広く学内外に示し、ご助言・ご指導を乞うものであります。

スタッフ紹介

留学生センター

2002年3月現在

部 門	職 名	氏 名	日本語クラスのコーディネート
日本語教育部門	センター長、教授	川平 博一	日本語・日本事情
	教授	金城 尚美	日本語・日本事情 学部留学生の日本語専門科目 理工学研究科特別コース日本語クラス 院生・研究生のための日本語講座
	講師	渋谷 晶	研修コース 日韓共同理工系学部留学生事業 院生・研究生のための日本語講座
短期プログラム部門	教授	原勢 二郎	
	助教授	石原 嘉人	短期プログラム
相談部門	助教授	佐々木 香代子	生活日本語
	助手	金城 かおり	

留学生課

2002年3月現在

係	職 名	氏 名	仕 事 の 内 容
	課長	横田 永正	総括
留学生センター係	係長	知念 勝	留学生センターの事務 日本語研修コース
	事務補佐員	下茂門 みな子	日本語・日本事情の授業 院生・研究生のための日本語講座
留学生企画係	係長	仲本 盛浩	帰国留学生 国際交流会館
	留学生企画係	大城 綾子	生活日本語
	事務補佐員	新里 陽子	学寮、民間アパートなど 地域との交流、国際交流の総括 広報
短期留学係	係長	野原 繁雄	短期留学の受け入れ 短期留学プログラム
	専門職員	伊佐 眞一	短期留学の派遣 奨学金およびその証明書発行 医療費の補助 アルバイトの申請
	係員	喜屋武 朝記	国費留学生 外国政府派遣留学生 県費留学生 チューター

2002年春学期開講予定の日本語科目



日本語・日本事情

大学教育センターで提供している「共通教育科目」の日本語・日本事情です。全て単位の出る科目です。

対象：科目等履修生、特別聴講生、学部生（日本人は除く）

スケジュール：4月12日（金）～8月5日（月）

日本語のレベル：日本語（初級）、日本語（中級）、日本語（上級）

その他、日本事情（沖縄事情）、日本事情

問い合わせ：金城尚美 (knao@11.u-ryukyu.ac.jp)、

金城克哉 (法文学部 kinkats@11.u-ryukyu.ac.jp)

日本語専門科目

法文学部で提供している日本語専門科目（日本語・国際事情履修コース）です。全て単位が出ます。

対象：科目等履修生、特別聴講生、学部生（日本人は除く）

スケジュール：4月12日（金）～8月5日（月）

日本語のレベル：上級（日本語作品購読 I、日本語文章表現 I、日本文化 I、基礎演習 I）

問い合わせ：金城尚美 (knao@11.u-ryukyu.ac.jp)、

金城克哉 (法文学部 kinkats@11.u-ryukyu.ac.jp)

日本語研修コース（大学院進学前予備教育）

主にコース修了後に大学院で専門の研究を行う国費留学生、および教員研修生を対象とした1学期間の集中コースですが、定員に余裕がある時は私費の留学生も受講できます。単位は出ません。

対象：国費の研究留学生、教員研修生等

スケジュール：4月10日（水）～8月2日（金）

日本語のレベル：初級

授業時間：月曜日～金曜日の1時限目～4時限目

問い合わせ：渋谷晶 (akis@lab.u-ryukyu.ac.jp)



短期プログラム

主に短期プログラムの学生のための日本語クラスです。単位が出ます。

対象：短期プログラムの留学生

スケジュール：4月12日（金）～8月5日（月）

日本語のレベル：日本語（初級後半）、日本語（中級）
その他、初級から上級までのアラカルト科目があります。
問い合わせ：石原嘉人（y-ishi@lab.u-ryukyu.ac.jp）

大学院生・研究生のための日本語講座

大学院生・研究生のための日本語クラスです。単位は出ません。
対象：大学院生、研究生等
スケジュール：4月22日（月）～7月26日（金）の予定
日本語のレベル：初級～中級
問い合わせ：金城尚美（knao@ll.u-ryukyu.ac.jp）、渋谷晶（akis@lab.u-ryukyu.ac.jp）

日研生特別クラス

日本語・日本文化研修留学生のためのクラスです。単位は出ません。
対象：日本語・日本文化研修留学生
スケジュール：4月16日（火）～7月30日（火）の予定
日本語のレベル：上級

生活日本語

主に留学生の家族（成人のみ）のためのクラスです。国際交流会館で授業を行います。
対象：留学生の家族（但し、成人のみ）
スケジュール：5月21日（火）～7月25日（木）計20回
※曜日は変わる可能性があります。
日本語のレベル：入門
問い合わせ：佐々木香代子（daisukes@lab.u-ryukyu.ac.jp）

2002年度の行事予定

- 4月 新入生オリエンテーション、チューターオリエンテーション、新入生健康診断
- 5月 体育祭
- 6月 留学生と、地域の代表者および教職員との交流会
- 7月 留学生まつり
- (8月上旬～9月末 夏休み)
- 10月 新入生オリエンテーション、チューターオリエンテーション
- 11月 沖縄地域留学生交流推進協議会主催の親善交流会、琉大祭
- 12月 留学生研修旅行

(1 2月下旬～1月初め 冬休み)

2月 日本語スピーチ大会

(2月下旬～3月末 春休み)



この他に、毎月第4木曜日の19:00～20:30まで、国際交流会館2階で「多文化サロン」を開いています。日本人の学生と留学生が自分の使える言葉で話をするサロンです。ぜひ、遊びに来てください!

問い合わせ：佐々木香代子 (daisukes@lab.u-ryukyu.ac.jp)

相談室のご案内

センターでは、学習や日常生活について困っている方、健康面・精神面で悩んでいる方のために、相談時間を設けています。一人で悩みを抱えていないで、気軽に話に来てください。

◆ カウンセリング

異文化カウンセラーが勉学や生活、人間関係等の悩みに応じます。

場 所： 留学生相談室 (国際交流会館内) ((098)895-8100)

時 間： 火曜日 15:00～ 18:30

金曜日 15:00～ 18:30

連絡先： マキシシ・ランドル (098)8951157 (電話予約・電話での相談)

[時間外、週末、緊急の場合： (098)877-7529]

◆ 学習および生活相談

履修、学習、進学、生活等の悩みや問題について相談に応じます。

▼理工系学生のための学習・進学相談

場 所： 留学生センター2階205-2

時 間： 火曜日 16:00 ～ 18:00

連絡先： 留学生センター 原勢二郎 教授 (098)895-8094

※メールでの相談にも応じます。 harase@lab.u-ryukyu.ac.jp

▼学習・進学相談

場 所： 留学生センター2階208

時 間： 火曜日 16:00 ～ 18:00

木曜日 16:00 ～ 18:00

連絡先： 留学生センター 佐々木香代子 助教授 (098)895-8113

※メールでの相談にも応じます。 daisukes@lab.u-ryukyu.ac.jp

▼生活相談

場 所：留学生センター 2階 205-1

時 間：月曜日 15:00 ～ 17:00

火曜日 15:00 ～ 17:00

連絡先：留学生センター 金城かおり 講師 (098)895-8116

※メールでの相談にも応じます。 kaori@jim.u-ryukyu.ac.jp

- ◆ 上記以外の時間及び事務的な相談は、下記にても受けつけます。

学生部留学生課 (事務局 1階) (098)895-8131

※なお、法文学部、理学部には、留学生担当の教官が1名ずついます。

法文学部 金城克哉 共通教育棟 4-402

(098)895-8300 kinkats@ll.u-ryukyu.ac.jp

理学部 杉山卓也 理学部複合棟 708

(098)895-8573 sugiyama@sci.u-ryukyu.ac.jp

日本人学生ボランティア募集！！

留学生センターでは、留学生支援の一環として、日本人学生ボランティアを募集しています(原則として、「学生」ですが、卒業生も歓迎します)。留学生との交流を希望している皆さん！ぜひ、ご登録ください！！

登録の仕方：留学生課に「日本人学生ボランティア登録用紙」がありますので、それに必要事項をご記入の上、ご提出ください。また、メールでの受け付けもいたします。

問い合わせ：佐々木香代子 (daisukes@lab.u-ryukyu.ac.jp)

ホストファミリー募集！！

留学生センターでは、留学生が沖縄の人々と交流し、その生活や風俗・習慣、価値観やものの考え方などを理解することと、留学生と沖縄の人々の双方が互いの相違点だけでなく、共通点を見出し、共感する経験を持つことを目的に、ショートステイ(一泊二日あるいは二泊三日)およびホームヴィジット(日帰り)のプログラムを発足させ、少規模ながら、沖縄の人々と留学生の交流を始めています。

このプログラムの趣旨をご理解いただき、留学生受け入れにご協力いただける方、ぜひお申し込みください！



応募方法：「ホストファミリー登録申請書」に必要事項を記入し、「ホストファミリー登録申請書」と家族の集合写真（スナップ写真）を郵送してください。

問い合わせ：佐々木香代子（TEL: 895-8113）（E-mail: daisukes@lab.u-ryukyu.ac.jp）

外国人留学生後援会ご加入のお願い

昨年6月よりご加入のお願いをしております「外国人留学生後援会」ですが、おかげをもちまして、皆さまからのご寄付の総額が約150万円に達しました。

14年度も引き続きご加入の受けつけをいたしますので、よろしくお願いたします。

問い合わせ：留学生課・伊佐（8115）

ホームページのご案内

留学生センターのホームページ、ご覧になったことがありますか？日本語版、英語版がありますので、ぜひご利用ください！アドレスは、下記の通りです（琉大の公式ホームページからもアクセスできます）。

<http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~insc/>



留学生同窓会のご案内

琉大を卒業または修了した元留学生が同窓会をつくりました。ホームページもできましたので、ぜひアクセスしてみてください！（留学生センターホームページとリンクしましたので、留学生センターホームページからもアクセスできます。）

<http://users.goo.ne.jp/kkaibo/>

2001年度日本語スピーチ大会

2月7日（木）と8日（金）、大学会館ホールで「第13回日本語スピーチ大会」が行われました。日本語を学んでいる学生のうち、約90名が参加しました。期末試験直前にも関わらず、当日は、日本人の学生もボランティアで大会の裏方を勤めてくれました。また、今年は、留学生の作品（書道やシーサー、俳句、短歌など）が展示され、大会に色を添えました。入賞者は、下記の通りです。なお、「みんなで選んだで賞」は、会場の投票で1位になった人に与える賞です。

初級前半レベル

◆ 優秀賞

フィリップ・バタナノンヌ（フランス）「わたしはジャッキー・チェンではありません！」
ラーマン・モド・アシズル（バングラデシュ）「にほんごの『できない』ベンガル語の『みえない』」

◆ おもしろいで賞

コンボ・モハメド（タンザニア）「忘年会、沖縄で私が最も驚いたこと」

◆ 発音がきれいで賞

ハムドン・アシャ（タンザニア）「アフリカの屋根キリマンジャロ」

◆ みんなで選んだで賞

フィリップ・バタナノンヌ（フランス）「わたしはジャッキー・チェンではありません！」

初級後半レベル

◆ 優秀賞

カイルル・イズワン・ビン・ムサ（マレーシア）「辛いけれども仕方がない」
グレイス・タンポコ（フィリピン）「なっとう食べよう」
新垣ディアナ（ペルー）「私って変な人ですか」

◆ おもしろいで賞

李泓枝（韓国）「私の姉はうそつきです」

◆ グローバルで賞

金鍾浩（韓国）「留学生に言いたいこと」

◆ みんなで選んだで賞

カイルル・イズワン・ビン・ムサ
（マレーシア）「辛いけれども仕方がない」



中・上級レベル

◆ 優秀賞

劉桂英（台湾）「ケンカ友だち」

ユー・イボーン（シンガポール）「あなたには見えますか」

河度亨（韓国）「自分の価値が生まれた時」

金昴京（韓国）「学生会議・イン・オキナワ」

崔喜楽（韓国）「『言葉』に魂あり」

◆ おもしろいで賞

陳欽文（台湾）「いいです」

◆ 心が伝わったで賞

李惠真（韓国）「以言伝心」

◆ いっしょに自然を守りま賞

フロー・ジョ・フランソワ（フランス）「自然のない所に明日はない」

◆ 未来にメッセージを伝えま賞

フランセス・ハートウェル（アメリカ）「南部の伝統」

◆ 広い心を持ちま賞

金美恩（韓国）「犬を食べる韓国人は野蛮人なのか」

◆ みんなで政治に関心を持ちま賞

署喟準（中国）「政治に関心を持ちましょう」

◆ みんなで選んだで賞

蛎賠（中国）「『キレイ』って何だろう？」

アグニェシカ・オチフィエヤ（ポーランド）「どうやって男性の心を捕らえるか」



なお、3月16日（土）に行われる沖縄県国際交流・人材育成財団主催の「第19回外国人による日本語弁論大会」に、琉大から9人が出場する予定です。この大会については、次号にてご報告いたします。なお、出場者は、下記の通りです（出場順）。

フロー・ジョ・フランソワ（フランス）「自然のない所に明日はない」

金美恩（韓国）「犬を食べる韓国人は野蛮人なのか」

フランセス・ハートウェル（アメリカ）「残すべき伝統、変えるべき伝統」

はじめトレス内里（メキシコ）「おばあちゃんとわたし」

陳欽文（台湾）「いいです」

劉桂英（台湾）「ケンカ友だち」

ユー・イボーン（シンガポール）「あなたには見えますか」

グレイス・タンポコ（フィリピン）「なっとう食べよう」

新垣ディアナ（ペルー）「私って変な人ですか」

3月末日に留学生センターを去る方から一言



留学生へのメッセージ

留学生センター長 川平 博一

かつて、琉球大学の創設者は、「本大学がいわば文化的発電機となって、そこから新しい力と新しい光が琉球列島の諸島のあらゆる村に流れていくように」と願い、創設年の大学便覧の巻頭言とした。その後継者は、この「新しい力と新しい光」が国境を越え、さらに遠くへ「流れて」いくことを願っている。そして私は、この「新しい力」と「新しい光」の担い手が、皆さん留学生であらんことを切望します。そうなることで、日本が目指す「知的国際貢献」が実を結ぶことにもなるのです。

次に、漢籍に精通し、紀元前の書物『論語』の「四海の内は皆兄弟」という言葉を知ってか、私達沖縄の先達は「イシャリバ、チョーデー」という素朴だが意味深いことばを残している。皆さんには、キャンパスで出会う異文化の友人を「違う」と見るのではなく、「同じ」だと見るようにして欲しいものです。

留学生課で最近思うこと

留学生課長 横田永正



本学の短期留学プログラムが昨年秋に本格スタートし、留学生課の仕事も賑わいを増してきた。英語による特別授業は、理工学研究科でも行われているが、これら留学生達は教室を一步出れば、そこは日本語の世界である。日本語の苦手な留学生にとっては、せつない留学生生活を強いられていないか気になるところである。しかしながら留学生達からはそんなことを感じさせないの逞しさが有り頼もしく思う。

いま留学生を取り巻く環境は厳しい。僅かばかりの奨学金に多数の応募者が殺到し、また大学の宿舎に入居するため必死になっている留学生達の姿を見るにつけ、胸が痛む。お金があればと思うのは私ばかりではあるまい。この仕事を担当している者なら皆痛感していることであろう。

わが国の留学生受入れも最近右肩上がりに動き出し、政府の施策である「留学生受入れ10万人計画」もやっとゴールが見えてきた。10万人受け入れも良いことであるが、その受け皿となる留学生宿舎の整備や奨学金制度のあり方など、どうにかならないかと思う。じだんだを踏んでいる今日この頃であるが、それでも留学生達への可能な限りの対応は、忘れてはいけないと思う。



私の一言

「留学生センター・ニュース」発行、おめでとうございます！

宋 天燕（医学部医学研究科博士課程1年）

沖縄へ来たのは1999年でした。ちょうどその年に留学生センターができて、それ以来ずっとセンターの先生達にお世話になっています。初めて留学生センターの先生と出会ったイベントは万座ハーリーフェスティバルでした。「ワールドちゃんぷるー」チームは競技練習を陸上でやりましたので、本番の時は海の中でターンを曲がりきれずに転覆してしまわないかとコーチの先生（留学生センターの先生が担当）も、“選手”の私たちも皆心配していました。しかし、練習はとにかく真面目で必死でした。「国際交流会館」2階ルームで、権の代わりに帯を手を持って握り方を習った風景は今でも記憶に新しく、思い出すたびに笑い出してしまう。中国語の諺に「志をもって努力すれば何事も成すことができる」と言う如く、「ワールドちゃんぷるー」チームは見事に一番速くコースを終えました（同時スタートしたチームは3つしかなかったですけど）。

思うに、これはもう3年前のイベントで、既に他のメンバーの記憶から消えているだろう、いや、皆絶対に覚えているはずです。それは、留学生の私たちははじめて留学生センターの先生達と接して、私たちへの思いやりを感じ；初めて国が違って、言葉が違って、船に乗ったことがあってもなくても皆団結してやればできるんだと分かったことでした。一方、先生達は「留学生センター」が設立された当初の苦労さと目的達成後の満足感がまだ心に残っているでしょう。

「留学生センター・ニュース」発行にあたり、留学生センターの先生と初めて接した時の思い出をここで皆に語り、感謝の気持ちを伝えたいと思います。この他に、「ホームビジット・プログラム」に参加したことにより、沖縄の素敵な家族と出会いました。チャンスがあれば、その話をもまとめて話したいと思います。

大学の窓口に当る留学生センターが「国際性豊かな特色ある大学」を目指して、どんどん発展するよう願っています。

三味線

大西 ステイシー（短期プログラム）

沖縄に来る人は誰でも、三味線の音を聞きます。どこでも聞くことができるので、聞きのがすことはありません。沖縄に来た時、私は三味線を学ぶことを決心しました。

ハワイでは、沖縄系の人口は多いので、祭や盆踊りで、沖縄の文化がよく紹介されます。その経験から、私は沖縄に来て、沖縄の人々や文化にふれたいと思うようになりました。しかし、三

三味線を習うことはそんなに簡単なことではありませんでした。私にとって、幸運にも短期プログラムの一環として、三味線と琉歌のクラスがあったので、三味線を学ぶ始めるには好都合でした。その三味線のクラスは普通のクラスではありません。そのクラスはフランスやタイ、インドネシアやアメリカなどから来た留学生のためのものです。そのクラスの先生も普通ではありません。バイロン先生はアフリカ系アメリカ人で、高校生から三味線を勉強しています。しかし、バイロン先生の教え方とフレンドリーな性格は生徒達ととても合っているので、生徒達はすぐに三味線を弾くことができるようになりました。最初に習った曲は“安波節”と“ティンスグヌ花”で、二曲とも留学生にとって、人気で、国際交流会館ではよくその曲が聞こえます。

2月8日に毎年ひらかれる留学生スピーチ大会でクラスは三味線を披露しました。クラスのみんなは三味線を弾くことは恥ずかしかったけれど、先生達からお褒めの言葉をもらったので、それは私達にまた三味線を弾き続ける刺激を与えました。

私は短プロ以外で三味線教室に行き始めました。その教室の先生は厳しいけれど、私は沖縄にいる間はずっと一所懸命三味線を習おうと決心しました。私はハワイに帰ったら、三味線のことを友達や家族に教えたいと思います。

チューターを通して

平松 隆善（理学部海洋自然科学科4年）

僕がチューターをやろうと思ったのは、将来、留学を考えていたので留学生と友達になりたいと思っていたからです。

チューターをやることになり最初心配したのが、英語で会話ができるかどうかということでした。しかし下手な英語でも熱心に話せば留学生は理解してくれるということがわかりました。自分が留学したらということを想像して留学生に接していました。留学生からすると言葉も文化も異なる国へ行くわけですから不安でいっぱいのはず。ですからその不安を少しでも取り除いてあげられたらと思い、レポート、バイト、サークルと忙しいながらも、時間を作って会っていました。

会うというのは大事なことです。電話で話をするだけでなく行動することで留学生は安心すると思います。

それから留学生が来日する時、空港まで迎えに行くのは大事なことだと思います。来日したばかりの留学生はどんな人が迎えに来るのか興味津々のはず。また迎えに来てくれた人を絶対に忘れません。

留学生からしてみたらチューターが初めての日本の友達かもしれません。よい友達になれるかどうかはチューターとは何かということを考えて行動することだと思います。チューターを単なるアルバイトという気持ちでやったら長くは続かないと思います。最初は戸惑うことも多いでしょうが相手の気持ちを考えてよい友達になってください。

留学生ボランティアの活動

矢敷 彩子（理工学研究科博士前期課程2年）

私が留学生ボランティアとして活動に参加したのは約2年ほど前からです。私の所属している理学部は海外からの留学生が他学部に比べても非常に多く、私の研究室のまわりにも常に留学生や外国人教官がいます。自国を離れて外国で生活する彼らには、たくさんの悩みやトラブルがあることは容易に想像できましたが、当時の私はなかなか留学生と積極的にかかわることができませんでした。留学生に何かしてあげたいと思っていてもできなかった私にとって、留学生ボランティアという役割は願ってもないものでした。



ボランティアとしての初めての活動は、夏におこなわれた留学生祭りでした。留学生が主体となっておこなう初めてのお祭りです。参加する留学生も初めてだし、お世話する日本人学生のほうも初めて、どうなることやら…という感じでしたが、終わってみると大盛況で大成功！私は南米の学生とメレンゲを踊り、さっそく知り合った留学生たちと片言の英語で楽しくおしゃべりして、お世話するほうの私がむしろ楽しんでしまいました。

留学生に何かしてあげたくても、その1歩が踏み出せない日本人はたくさんいます。その1歩が出せない理由について、チューターがきちんとお世話するから、私は英語があまり話せないから、忙しいから、などさまざまなことをあげてしまいがちです。私にとって留学生ボランティアの活動は、その1歩を踏み出す力を与えてくれました。1歩を踏み出したい学生の皆さん、私たちと一緒に留学生と遊びませんか？

エイサー的文化交流

仲嶺 亜希子（法文学部国際言語文化学科3年）

私は、2000年の9月から2001年の8月まで琉大の提携校である中国福建省の福建師範大学に留学した。私が留学した福建省は沖縄県の友好都市であり、私が留学していた福州市にもたくさんの沖縄県人がいた。そこで2001年11月に沖縄で行われる世界のウチナーンチュ大会のイベントとして福州でも何かしようということで5月21日に「ウチナーンチュ大会記念中国交流祭」を開催することになった。そこでは、私たち日本人留学生と中国人学生との学生会議やビジネスマン会議、エイサー大会などが予定され、私たちは沖縄県人会の方々と協力して準備を進めた。私はエイサーの経験があったのでエイサー大会の実行委員長として3月ぐらいから日本人学生と中国人学生にエイサーを教えた。エイサーとは何かが全くわからない中国人学生は当然リズムについていけず、踊りをいきなり教えるのは非常に難しかったので、私はまず、自分自身でエイサーとは何かを調べ、琉大からいっしょに留学した友達と一緒にエイサーに参加する中国人学生の授業時間を1時間かりて、エイサーの授業をしたり、エイサーのテープを貸したりしてエイサーの紹介をした。幸い参加する学生は日本語学科の生徒だったので、沖縄の文化に

もとても興味を示してくれ、また中国語と日本語を交えながら話ができお互いに刺激のある交流になった。エイサーをするまで中国にいながら中国人学生との交流がほとんどなく、これをきっかけに中国人学生達との中も深まり今でも連絡をとりあうことのできる友達ができたので私はこれをエイサー的文化交流の賜と呼びたい。また、沖縄との交流のある都市に沖縄の文化を紹介し、そしていっしょに実践したということはとても意義深いことだと思う。私自身も故郷の文化を再認識できる良い機会になったと思っている。

福州での留学生活を通して留学とは自分が相手の国の文化を学ぶというだけではなく、自国の文化を知り相手に伝え、お互いに交流するためのものでもあるということ強く感じた。そのためにも、沖縄に帰ってきた今、私はもっと沖縄のことを知らなければいけないと思うし、それを自信を持って紹介できるようにならなければならないと感じている。

ホストファミリーになって



大田 振子 (ホストファミリー)

我が家は夫と私、中三の娘と3歳の息子の4人で多言語を自然習得するヒッポファミリークラブに所属し、家族揃っていろいろな言葉に興味がある。多言語を話せるようになる近道は、その言葉の環境に身を置くことだということで、ホストファミリー登録をした。琉大留学生の初ゲストは、フィリピンのアソンさん。彼女はとても素敵で、祭りやバーベキューへ連れていくと、子どものように喜び、私まで嬉しかった。帰る日、私の結婚式には招待状を出すので、フィリピンへ必ず来て、と言われた。期待して待っている。頑張って旅費を貯めなければ。

次のゲストは、イランのホサインさん夫婦。琉大留学生以外のホストも何度かしたが、夫婦というのは初めてだ。夫の留学に新婚の妻がついて来たという珍しいゲストだった。甘いものが大好きな夫婦で、紅茶に砂糖を12~3杯は入れていた。イランでは普通だと教えられた。賑やかな二人で、朝からいつも歌っていた。盛り上がりすぎて、ドラム代わりに鍋をひっくり返し、底をボコボコにしたこともあった。楽しかったから、別れる日、3歳の息子が泣いた。何度かホスト経験をするうちに、異なる民族、異なる文化の垣根がなくなった。初めは、ただ単に多言語を話したいだけだったのが、多くの事を学ぶ機会になり、感謝している。今年もまた、どんな出会いがあるか家族で楽しみにしている。

留学生センター・ニュース

発行：琉球大学留学生センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL: 098-895-8113

発行日：2002年3月